

平成28年度「土砂災害防止に関する絵画・作文コンクール」作文小学生の部 優秀賞
(群馬県治水砂防協会会長賞)

「土砂災害から身を守る」

嬭恋村立西部小学校 6年 黒岩 美桜

私の住んでいる地域は、山がたくさんあり、山に囲まれています。大雨がふればいつ土砂災害が起きてもおかしくありません。実際に、小さい土砂災害なら近くで起きたこともあります。土砂災害はとてもこわいものだと思います。

ここ数年で土砂災害のニュースを見たり、新聞で見たりします。大きな家も土石流によってこわれたり、おし流されたりします。人がその土石流にうもれて行方不明になったり、亡くなってしまう人もたくさんいます。私はそれで「土砂災害はとてもこわい。」というのが印象です。そんな土砂災害を「防止することはできないのかなあ。」と思います。私は四年生の時、砂防ダム見学に行ったことがあります。土砂災害が起きることを防止するのは無理だと思います。自然災害は防止するのが難しいはずです。雨がふらなければ、土砂災害はおきないけど水不足になってしまいます。雨も必要なものです。だから自然災害を防止するのは難しいと思います。もし土砂災害が起きて土石流が流れてきて山や川などから下流の川へ流れるのを防ぐのが砂防ダムです。でもニュースなどで見る土砂災害は、土石流が家をおし流して行方不明になってしまう人もいます。夜おそくまでそう索しても見つからないほど大変です。いくら、防止するダムなどがあっても、それをこえる土砂災害が起きたら大変です。なので、ひなん訓練をしたり、ひなん場所の確にんがとても大切だと思います。五年生の時に社会で「災害を防ぐために」という学習をしました。その学習の中で土砂災害の学習もありました。

実際に宮崎県では土砂災害が起きました。しかし、一人のぎせい者も出ませんでした。それは、消防団の人達が、ひなんを知らせ、自分達でも早くひなんができたからです。宮崎県の土砂災害が起きた地域のみんなで土砂災害を防ぐ事ができたのです。私は、その学習をしておどろきました。「ぎせい者無し。」という結果がすごいと思いました。前までの土砂災害は「こわい」という印象が少し無くなりました。土砂災害は、みんなで協力すれば、防ぐ事ができると知ったからです。防災教育やひなん訓練などが行われていますが実際に土砂災害が起きたら、一人一人が判断して早めのひなんをすることが大切だと思います。私達にもできることがあると思います。それは、すぐひなんすること・周りに呼びかけること・普段からの備えをすること・土砂災害の前ぶれに気づくこと・自分の住んでいる場所が「土砂災害危険箇所」かどうか確にんすることです。前ぶれは、地面にひびわれができる・「ゴー」という山鳴りがする・斜面から水がわき出す・がけから小石が落ちる・急に川がにごり流木が混ざる・がけにわれ目が見えるなどたくさんあり、その前ぶれに気づくことが大切だと思います。

実際に土砂災害はもちろん起きてほしくないです。でも山がたくさんあり、いつ起きてもおかしくありません。私は、砂防ダム見学や、ひなん訓練、社会で学習したことを全て活かして実際に起きてしまったら行動したいと思います。地域のみんなで助け合い防げることもあります。地域のみんなで防げたらとてもすごいと思います。普段から備えておき防災意識を高めたいと思います。